

2020 年度日本武道学会柔道専門分科会研究会
「柔術・柔道史研究の現状と課題：日本と海外の研究状況」のご案内

・研究会趣旨

柔術・柔道の歴史研究は、対象の時間的・空間的な拡大や、取り扱うテーマの多様化によってますます豊富化してきている。代表的な研究としては、井上俊『武道の誕生』（吉川弘文館、2004年）、寒川恒夫『日本武道と東洋思想』（平凡社、2014年）の第4章「柔道」が挙げられるだろう。ただし、これらの研究は社会学や人類学の専門家によって進められてきたが、研究手法としては過去の資料を用いた歴史研究である。そのため、人文社会科学の柔術・柔道研究において歴史研究が重要であることは間違いない。

さらに近年では、階級やジェンダーなどといった視点を新たに用いて、あるいは移民史やグローバル・ヒストリーなど歴史学の研究潮流を取り入れることによって、より重層的かつ広範な研究が期待されている。現在のところ坂上康博編著『海を渡った柔術と柔道』（青弓社、2010年）がこうした潮流を意識した論文集だが、この方面的研究は今後期待されるところである。

本研究会ではこうした柔術・柔道史研究が現在、日本の国内外でどのように行われているのか、また今後どんな研究の展望が拓けるのかを議論したい。

・研究形式

会議形式：研究発表型（Zoom を用いたオンライン形式）

期　　日：12月20日（日）14:00～16:10

プログラム：14:00～14:40 中嶋哲也（茨城大学）「日本の柔術・柔道史の現状と課題」
14:45～15:25 星野映（早稲田大学）「ヨーロッパの柔術・柔道史の現状と課題」
15:30～16:10 ディスカッション

・参加にあたって

参加する場合は、以下の情報を世話役の中嶋哲也宛てにメールでお送りください。追って参加に必要な情報をご連絡させていただきます。なにとぞ、よろしくお願ひいたします。

1. 氏名
2. 所属
3. 連絡先メール
4. 柔道専門分科会の会員であるか否か（今回は会員でなくても可）

世話役：中嶋哲也（茨城大学）
メールアドレス：(tetsuya.nakajima.anthropology@vc.ibaraki.ac.jp)